

大門だより

No. 5
(465号)

荒川区立大門小学校
校長 野澤 一代
令和5年 9月 1日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

「 緊急事態でこそ味わった人のあたたかさ 」

校長 野澤 一代

九月の季語。三日月、菊日和（きくびより）、名月、十六夜、栗飯、とんぶり、松茸、秋薔薇、しその実。空が美しくなる季節ですね。猛暑の底がまだ見えませんが、今年ほど秋が待ち遠しいことはありません。

夏休みはどう過ごされましたか。酷暑と台風に悩まされた日本でしたが、皆様は充実した夏休みを過ごされたことと存じます。

そんな暑い中、8月4日から6日の二泊三日で、4年生は下田臨海学園に行きました。台風が九州に迫り、八丈島の近くに台風が発生した頃でしたが、天候に恵まれ、ほぼ予定を実施できました。

しかし、二日目の晩に東海道線の事故が起きました。駅員さんの話によると「十年に一度あるかないか」の事故、運休及び遅延だそうで、大門小が乗車する列車が運休しなかったのは奇跡的でした。それでも3時間近くが遅延。

まず、子供たちの体調管理が最優先でした。「水分、塩分、糖分を確保しよう。」

駅の売店で65本の水、あるだけの水を確保し、海で楽しんだ飴や熱中症対策ラムネの残りに買い足し、配分や配分時間を決め、子供たちに渡しました。駅の構内で涼しい場所を探し、涼みました。そんな緊急事態の中、子供たちは騒ぐこともなく、平常通りの様子で過ごしました。待たされる不安は当然あったと思います。しかし、誰も不安、不満を口にすることなく、落ち着いて過ごしていました。

また、周囲の方も皆さん温かい対応をしてくださいました。売店の方は、配布ぎりぎりまで水を冷やしてくれ、駅員さんも涼しい場所を提供してくれました。周囲の同じく列車待ちの大人の方も誰一人子供たちを疎ましく思う態度を示す方もおらず、「大変だよねえ。」と声を掛けてくださった程でした。

実は行きの列車も線路の沿線での事故のため、45分間遅れました。車内で過ごすことができたのが今思えば幸いだったのですが、午後の予定を予定通り行う算段をしました。「お弁当のゴミの処理を列車内でできないか。」下田駅に問い合わせたところ、「列車にまとめておいていってください。」との言葉をいただきました。

私たち教職員は周囲の方にお世話になった感謝の念を忘れることはないでしょう。そして、全校朝会で「あのときはね。」と『人の温かさ』について子供たちに話をしようと思います。

真っ暗の中帰校した際は、保護者の方全員がお迎えに来てくれていました。子供たち、頑張ってきたのでとてもうれしそうでした。また、引率の教職員それぞれに慰労のお言葉をいただきありがとうございました。教職員もまた、無事に連れ帰った安堵感と保護者の方のお言葉にうれしそうでした。

2学期は、運動会、学習発表会と大門小学校の二大学校行事があります。一つ一つの機会を大切に、教職員一同、力と心を合わせてがんばります。引き続き、ご家庭のご協力とご支援をお願いいたします。

